

本を選ぶ

高校図書館版

NO. 22 1996年(平成8年)11月10日

●発行/ライブラリー・アド・サービス

本社 〒162 東京都新宿区下宮比町2-28 飯田橋ハイタウン517 TEL.03-3235-6168

ぶっく・えんど

ピアス

自我の確立と原始信仰の狭間で

ヘルマン・ヘッセの『デミアン』の中に、主人公のシンクレールが音楽家ピストoriusとともに、炎を見つめる光景が描かれています。シンクレールはその時、これまでの自分を取り巻く世界を破壊し、新しい自我を見いだそうと苦しんでいます。彼はピストoriusと一緒に眺める炎に、拝火教に始まる原始信仰を思い、既成の概念とは異なった固有の信仰を自らのうちに形成します。

シンクレールはそうして自分だけの神を見つけ、やがて本来の自我への目覚めを自覚して行くのです。

人がその自我に目覚めようとするとき、無意識に古代信仰の跡をなぞることがあるのは、奇妙なことです。最近よく話題になる高校生のピアス装用でも、年令的な個の確立に至る原始信仰への廻りを、観察できます。

私たち耳鼻科医が、日常診療で手を焼くピアス皮膚炎や金属アレルギー。高校生らが、そんな様々な危険を冒してまでもピアスを装着したがる背景には、その年代特有の他人との差別化意識が存在するみたいです。それは、私のクリニックで数千名の女子高生や短大生を対象に実施したピアス装用に関するアンケートの内容の、ピアス装着

の動機に関する回答からも推測できます。単なる好奇心や周囲の影響というだけでなく、人生のきっかけにしたかったとか運命が変わるよにとの返答が、かなりの比率で見られたのです。他とは異なる自分の人生を探し求めている様子が、臍気ながら覗えるような気がします。

一方、ピアス装用が原始信仰の名残だというのは、以下のような理由からです。

そもそも人間が病気になるのは、外界から魔物など悪さをする得体の知れないものが体の中に忍び込むためだ、との素朴な信仰があります。ですから例えば病気の治療法として、ヒマシ油で下痢を誘発させたり瀉血で悪い血液を体外に追い出す、そんな方法が採られます。

それに対し他方では、魔物を入り口から中に入れない予防的な魔除けを使う信仰もあって、家の玄関にお札を貼るなど今でもポピュラーです。お札代わりに魔物の棲む間を切り裂く太陽や炎も利用され、光り輝く貴金属や宝石もその役割を担います。

つまりこうした原始信仰では、耳や鼻など人体の穴の内部に通じる入り口には貴金属とか宝石を装着して、魔物の体内に入って来るのを防がねばなりません。人体でピアスを装用するのは、他の部位も含めすべて穴の開いた場所のそばだということも、この解釈を裏付けます。

人が精神的な自立を意識するとき、原始信仰に思いを馳せるのはなぜでしょう？ 最初の第一歩から自己の人生を歩み直そうとするため、なのでしょう。

(三好 彰：三好耳鼻咽喉科クリニック)

★誌上ブックトーク★ 水俣病—保健の授業のために—

井邊清子

教育実習の先生が保健の授業で「水俣病」の単元を教えるために教材研究に図書館にられました。生徒に教えるための資料探しとなると、実習生が図書館の棚から必要な資料を見つけるのは難しそうです。分類番号<591>公害の書架から『公害概論』（宇井純著）をひとりで探してこられました。教材研究のために読むにも難しそうですとつぶやいていました。その日は放課後の割合ゆつたりとした時間帯でしたので、私も一緒に本を棚から抜いていきました。そして後日、いくつかの資料を追加しました。そのときのブックリストをご紹介します。実習生に紹介した本には三つのグループがあり、①生徒にすすめるのに向いている本、②教材研究に読む本、③①と②の両方を兼ねているものです。

予備知識がほとんどない人が概要を知るために、『水俣病』（原田正純著）を紹介しました。水俣病の発生当初からのことが詳しくわかります。『苦海浄土』（石牟礼道子著）には水俣の海の生活が克明に描写されている『雪女聞き書き』と散文的な『天の魚』などが収録されています。新書版と文庫本なのでとつきやすいと思います。

写真集では2冊。『水俣』（ユージン・スミス写真/文）と『水俣—終わりなき30年』（桑原史成著）は生徒に見てもらうのに欠かせない資料です。まずはビジュアルな資料で水俣病の悲惨さを真っ直ぐ知ってもらいたいものです。この4冊は水俣病を教えるのなら、読んでおくべき資料だと思うし生徒にも是非とも紹介してほしい本です。

『水俣の赤い海』（原田正純著）『みなまた海のかえ』（石牟礼道子・丸木俊・丸木位里著）『日本の産業9 産業と環境編』（西川治監修）は、児童書ですが、昼休みや放課後に図書館で読み切れる分量なので、おすすめです。水俣病の実態を知るという意味では難しい本ばかり読む必要もないし、まず読みやすい本で何かを感じることも大切なことではないでしょうか。

他に生徒に紹介する資料としては『不知火記』（羽賀しげ子著）『出月私記』（最首悟編）が適

していると思われます。

また水俣病を過去の問題としてではなく、現代でも起こり得る問題として考えることが大切ですが、そういった視点に立つと、『水俣の海底から—終れない水俣展 講演録』（最首悟著）が非常にわかりやすくなっています。『田中正造と足尾鉬毒問題を考える』（法政平和大学マラソン講座3）『水俣そしてチェルノブイリ』（柳田耕一著）などが、水俣病だけが単独の問題として存在するのではなく、水俣以前の過去から水俣を経てそれ以後の社会に尚も過ちを繰り返している人間社会を垣間みることができ、自然との共存をわかりやすく訴えている『沈黙の春』（レイチェル・カーソン著）『風の谷のナウシカ』（宮崎駿著）『複合汚染』（有吉佐和子著）まで紹介してほしいし、<ミドリ十字の薬害エイズ事件>関係の新聞記事も目配りしてほしい最近の資料です。

10月11日の朝日新聞の<天声人語>では、水俣病の公式確認から40年を迎え、JRの品川駅特設会場で開かれた<水俣・東京展>について述べられていますし、11月3日の毎日新聞によれば、『水俣病事件資料集1926~1968』（水俣病研究会編）が第50回毎日出版文化賞を受賞しています。司書としては、さまざまな社会問題につながる出版物はもちろんですが、幅広くアンテナを張ることも大切です。

以上が生徒にすすめたい、あるいは一般的な読み物としてうちの学校の図書館にあった水俣病の資料の紹介です。

教材研究用に

教材研究用に紹介した資料は、社会科の先生にお世話になりました。現代社会の授業で水俣の問題をとりあげたときに、現地を訪ねて、そこで資料を集めてきた先生がいらっしゃるのです。

『水俣病・授業実践のために—学習材・資料集—（高校向け）』は、水俣の高校で現代社会の授業として水俣病を学習するとりくみについて資料が揃っています。水俣病を公害としてとらえるのではなく、<水俣のまちの歴史><チッソの歴史>、そして<日本の歴史>の中で考えるための現代社会の資料です。しかし、水俣に暮らす若者が

水俣病から生じた差別、立場が生む矛盾などを今の生活の中で抱えているにもかかわらず、20 数年間教育現場で水俣病を避けてきた事実が、本書の冒頭に記されています。この部分は、是非生徒にも読んでほしいと思います。

同じ研究サークルが出している小・中学生向けの資料集があって、その冒頭く水俣病の基本認識として>で、①水俣病とは②認定という概念は医学の概念ではないということ③授業実践のための基本視点④水俣病差別という4 項目について触られています。地元の教育現場での視点なのでかなり厳しい訴えがなされているのですが、限られた時間の中で生徒に何を訴えるのかまとめるのに参考になる資料だと思うよと言って渡しました。

また『水俣病年表』は、主なことがら・チツソのようす・被害のようすの三つに分れていて、1909年(明治42年)水俣にチツソ工場ができてからのことがわかりやすくまとめてあります。ほかに、地図、認定患者及び申請者の状況、認定制度の問題、魚種別漁獲高の表などいろいろなグラフや表に加えて被害者の人たちの詩なども収められていて、授業にはたいへんに役立つと思います。

新設校ですから、過去に出版された資料で基本的なものと思われるものが、品切れや絶版で、あるいは予算の関係で手に入りませんでした。そうしたもののうちの1冊が『水俣が映す世界』(原田正純著)でした。近辺には池田市立図書館と川西市立図書館がありましたので、水俣病関係で所蔵している資料のリストをもらいましたが、どちらも高等学校に対して団体貸出をしていないので、借りられませんでした。

生徒には、自館で持つて資料と池田・川西両公共図書館の所蔵リストを用意しました。

社会科の先生がお持ちの資料は館内閲覧のみとして、貸出はしませんでした。

やってみれば

実習生は、資料の多さに少したじろいだようでした。確かに2時間ほどの保健の授業のための資料提供としては、盛沢山だったかもしれません。でもかなり頑張って教材研究をされたようです。そして、1時間が2時間の授業のためにもずいぶん準備に時間がかかることなど身をもって経験

し、とてもよい勉強になったということでした。

私にとっても、貴重な引出しが一つ増えたと感謝しています。

実は、水俣病のブックリスト作りをしたのは、前任校の大阪府立池田北高校でのことでした。現在は府立高石高校の図書館に勤務しています。地域性の違いもあるし、生徒の気質も違っているし、学校の歴史も違います。水俣病について資料を提供する機会があれば、ここで所蔵しているものを加え、今度は高石市立図書館から団体貸出が受けられるので、それを利用して生徒や先生に資料提供したり、生徒の通学圏内の泉大津市立図書館や堺市鳳分館所蔵のリストも提供しようと思います。

図書館司書としてこういった経験の積み重ねが大事だと思います。いろいろな資料を求められて、一つずつ探していく、関連資料を調べていく、リストを作るなどなど、利用者によって司書は育てられていくのですね。

(いへ きよこ：大阪府立高石高等学校図書館)

★資料一覧

- ・『公害概論』(宇井純／亜紀書房／1971年)
- ・『水俣病』(原田正純著／岩波新書／1972年)
- ・『苦海浄土』(石牟礼道子著／講談社／1972年)
- ・『水俣の赤い海』(原田正純著／フレーベル館／1986年)
- ・『みなまた海のこえ』(石牟礼道子・丸木俊・丸木位里著／小峰書店／1982年)
- ・『日本の産業9 産業と環境編』(西川治監修／ヘネッセコーポレーション／1990年／品切)
- ・『水俣』(ユージン・スミス写真文／創樹社／1973年／品切)
- ・『水俣—終わらなき30年』(桑原史成著／径書房／1986年／品切)
- ・『不知火記』(『水俣語りつき1』(羽賀しげ子著／新曜社／1985年／品切)
- ・『出月私記』(『水俣語りつき3』浜元二徳語り／最首悟編／新曜社／1989年／品切)
- ・『水俣の海底から—終れない水俣展 講演録』(最首悟著／京都・水俣病を告発する会発行／1991年)
- ・『田中正造と足尾鉍毒問題を考える』(法政平和大学マラソン講座3／オリジン出版センター／1991年)
- ・『水俣そしてチェルノブイリ』(柳田耕一著／径書房／1988年)
- ・『沈黙の春』(レイチェル・カーソン／新潮社／1987年)
- ・『複合汚染』(有吉佐和子／新潮社／1979年)
- ・『風の谷のナウシカ』(宮崎駿著／徳間書店／1983年)
- ・『水俣病事件資料集 1926～1968』(水俣病研究会編／葦書房／1996年)
- ・『水俣病・授業実践のために—学習材・資料集—(高校向け)』(水俣芦北公害研究サークル／品切)
- ・『水俣病・授業実践のために—学習材・資料集—(小・中学生向け)』(水俣芦北公害研究サークル／1995年)
- ・『水俣が映す世界』(原田正純著／日本評論社／1989年)

●絵こらむ● 『BOYS BE…』(少年たちはいま…)

田村 修/文

神奈川県立藤沢工業高等学校図書館

高井 陽/絵

神奈川県立菅高等学校OB

「ねえ、気付いてよ」
ブックトラックを押して生徒が入ってくる。どうも隙をついてそれごと本を盗んでいったらしい。僕がカウンター作業で手一杯でそれに全く気付かなかったのが不満なのだ。

「返しにきてくれたの、サンキュー」

「盗んだのにサンキューだってさ」と不思議顔。次の日は「さて、何をパクろうかな」と聞こえよがしに、パンを片手に入ってきた。

「ヨイショツと」。今度は友人と書架を持ち上げる仕草。今日はそれを運び出す気のような。

「それは倒れると危ないからやめたほうがいいよ」

叱ったり、オタオタするのを期待していたためか拍子抜けしたらしい。図書館内を暫くぶらついてから帰っていこうとする。



と、彼等はリクエストの<お応え>を見た。

「リクエストすれば買ってくれるの?」

「買うよ」「マンガでも?」

「もちろん」ここぞとばかりに答える。

しかし、購入して彼に提供した後、1冊だけ返ってこない。

「誰かがもってつちまったんだよー」

彼は借りた本を教室に散らかしていたので行方不明になったらしい。

「このままなかつたらどうなるの?」

「弁償」「いくら」「400円」

「高つけえー!! そんな払えねえよ」

夏休み前、こうして交渉は決裂した。

また、「本貸して」と来たのは最近の事。

「現物代償か弁償してくれるまで貸せないよねー」「ヒッター!!! いいよもう借りないから」

この言葉には内心ギクツとしたが、その後あつけなく彼はおれた。「分割払いでいい?」

という訳で100円おいていった。その後ちょっと来なかったが、この前「しばらく来れないから」とまた100円を渡してくれた。翌日から彼は喫煙で自宅謹慎に入り、しばらくの間学校に来なくなった。

そして僕は今1冊の『BOYS BE…』(講談社)を古本屋で探している。●

～リクエスト用紙の記入例～

・わかる範囲内で書く。今年度は今のところ

マンガのリクエスト

も全て受けている。

雑誌も最新号のみ

購入。

3の本が読みたい!!

「リクエスト・予約依頼」
書かせるだけでいいから!!

今年度欲しい
『Boys BE...』 (全巻)
著者 高井 陽
出版社 講談社 値段 400円
ここに必ずにも書かなくてはいけない!!

かいます!!

今日の日付 11月15日

クラス 年 組 名

M・R・E・欄

※返却し必ず返すので、必ず自分の名前を明記してください!!

・キリトリ線。

掲示の時にココを切り離す。個人のプライバシーを守るのには、図書館のキ・ホ・ン!!

・司書が返事を書くところ。「買

います」とか「館内にあります」とか

「他の図書館から借りてきます」とか…。



トラブルにも落ち着いて あっという間の7年間 私のコンピューター導入奮戦記⑨

木下通子

まだまだトラブル

みなさんお元気ですか。早いもので2学期も半ばとなりました。遡及入力も全て終わり、「かすぞう君」もいくつかのトラブルがあったのですが、なんとか機嫌よく働いてくれています。

さて、最初に起こったトラブルは、日計をためておくジャーナルフロッピーの故障。壊れた理由は結局わからないのですが、貸出をしていて、とつぜん「実行エラーです」という表示が出て、その日の貸出冊数などを集計できなくなることが2回ほどありました。ワープロなどを常時使っている方は経験があるかもしれませんが、カーソルが点滅しなくなるという現象にも2回遭遇しました。どこを押しても動かない。いいやと思って、リセットをかけたら、その日の日計がパーになってしまいハードディスクから貸出状況を一件一件探し出して集計を取ったなどということもありました。その結果、4月から8月までの間に、純粋にパソコンだけで月間貸出統計がとれたのは、2か月しかありません。

今となつては笑い話なのですが、4月中にはこんな不思議なことがありました。絶対に貸しているはずの本の貸出記録がパソコンに入っていないんです。また、返却作業をしている時に、「この本は貸出されていません」というメッセージが出ることもありました。その上に、返却作業をして棚に戻っている本が貸出中になっていたりするのです。不思議でしょ。どうしてこんなことが起こるのかぜんぜんわかりません。ソフトを作ってくれた方に相談もしました。でも、原因がわかりません。ところがふとしたことでわかったんです。謎はハードディスクにありました。

ハードディスクには、蔵書や個人の貸出データが入っているので、ハードディスクが壊れてしまつたら誰に何を貸しているのかわからなくなつてお手上げです。そこで、バックアップ用のハードディスクを一台接続し、毎日バックアップを取っていました。バックアップ用のハードディスクも朝システムを立ち上げる時に一緒に立ち上げる用にセッティングしてもらっていたのですが、あ

る朝、何の気なしにハードディスクをみていたら、本体ではなくて、バックアップ用のハードディスクを読みに行っているではないですか！

つまり、日によって、立ち上がるハードディスクが変わるという怪現象が起こっていたのです。それからは、バックアップ用のハードディスクはバックアップを取るときにだけ立ち上げるようにしています。

つい先日にはいくら返却の作業をしても、本がパソコン上で返却されないというトラブルも起こりました。「図書の情報」で検索すると貸出中になっているのですが、借りているはずの利用者の「貸出画面」を見るとそんな本、借りていないのです。これも原因がわからないまま、しかたないのでその本のデータを一回削除してから、もう一度入力し直して無理矢理解決させました。

というふうに、システムが稼働したからといってすべてが順調に行っているわけではありません。パソコンのトラブルは、何が起こるか予測がつかないので、何か起こった時には落ちついて、最善の方法を考えて対処する。データがダメになっちゃっても落ち込まない。前の日のデータまでは生かせるように、毎日バックアップをとる。これが、半年間で学んだことです。

振り返ってみると…

まだまだトラブルは続くでしょう。が、すべての本の貸出を始めたここで一区切り。1989年の夏にうちの図書館に初めてパソコンが入って、あっという間に7年の月日が流れました。その当時と今とでは学校図書館のコンピュータをめぐる状況はずいぶん変わっているので、今となつては私が経験してきたことはあまり役に立たないかもしれません。でも、せっかくリアルタイムに状況をお伝えして来たので、今回はどんな風にパソコン導入に取り組んできたかを振り返ってみたいと思います。

●1989年7月：パソコン導入。ソフトは「LIBROS」に決定。J-BISCも合わせて購入し、自分でダウンロードをして遡及入力することを決意。

●1990年3月：12,000冊の本にバーコードを貼る。将来蔵書が増えることを想定し、7桁バーコードを貼る。その後もう一回同じ苦勞をすることに…。(本誌14号)

●1990年9月：J-BISCからのダウンロード開始。先生にも手伝ってもらい、4か月で6千冊の照合をする。まだJ-BISCの遡及版が発売されていなかったため、J-BISCからダウンロードできたのがそのうちの2千冊。その後、データ入力進まず。(本誌15号)

●1991年4月：新刊の入力を開始。新刊情報「らいつらりい いんふおめーしょん」の発行開始。(本誌17号)

●1992年3月：コミックのデータ入力完了。貸出ソフト「かずぞう君」導入。パソコンを使ってブックリスト作りを勢力的に始める。一般書のデータ入力の見通し暗い。(本誌18号) 6桁のバーコードを貼り直す。(本誌17号)

●1993年4月：CD-ROM検索サービス開始。コミックのみパソコンで貸出開始。貸出や授業での利用がどんどん増えて、遡及入力にまでまったく手が回らない。(本誌16、19号)

●1996年4月：すべての本をパソコンで貸出開始。(本誌20、21号)

こうやって振り返ってみると、ずいぶんと無駄な時間を過ごしたなあという気がします。たとえば、貼り直したバーコードのこと。最初からバーコードが6桁でなくちゃ「かずぞう君」では使えないと理解していれば、7桁のバーコードなんて元々貼らなかつたのです。

データ入力に関しても、LIBROSを導入した頃はJ-BISCの遡及版が発売されておらず、検索できるデータは1984年以降のものだけ。ヒット率が低いのも当然です。遡及版が出た後にダウンロードを始めれば楽だったのに…と思います。

とにかく、データ入力のようにコツコツと続けなければいけない仕事には根気が必要です。でも、それが難しい。パソコンを導入するとピツピツとバーコードをなぞるのが楽しくて貸出が伸びるという変な誤解もあるようなのでこういう書き方はしたくないのですが、うちの学校の場合、パソコン導入に比例して貸出や授業での利用もぐ

んぐん伸びてきて、パソコンも駆使しながらその対応に追われてしまったというのも、遡及入力に手が回らなかった大きな理由です。

いろいろお問い合わせいただきました

この連載も5年目に入りました。この間うちの学校にパソコンを見に来て下さった方や、お電話でお問い合わせ下さった方もたくさんいらっしゃいました。

連載当初は、「パソコンを導入したいんですが、予算をつけてもらえなくて…」というお話が多かったように思います。が、今は学校の方から図書館にパソコンをと言ってくる時代ようです。職員室や事務室にもパソコンが入っていて、「図書館にパソコンがなくても、校内にあるパソコンでCD-ROMが検索できます」とか、「図書館にも一台パソコンが入っていて、ワープロとして使っています」などのお話を聞きます。

質問内容も最初は「バーコードにはデータが入っているんですか」とか、「夏休み中に閉館して一人でデータ入力しようと思うんですけど、どうでしょう」という感じの質問が多かったのですが、この頃はソフトの使い勝手とか、「CD-ROMを揃えたいんですが、〇〇に使うためにはどれが便利ですか」という、より専門的な内容に変わってきました。以前は、「パソコンを導入したいんだけど何にもわからないんですが…」という基本的なお問い合わせの時に「データ入力がいちばんたいへん」というのをお話しても、なかなかわかっていただけませんでした。が、この頃はそこはもちろんわかつた上で具体的な内容のお電話をいただくケースが増えました。自校開発でソフトをお作りになるという方の質問もあって、こちらはプログラムなどの専門的なことはまったくわからないので、せつかくお電話いただいても役に立たないこともありました。

さて、この連載も次号でとうとう最終回。うまくまとめられるかどうかわかりませんが、みなさんからお寄せいただいた質問なども織りまぜながらまとめをしたいと思います。もちろん、うちの学校のドタバタにも触れたいと思います。お楽しみに！

(きのした みちこ：埼玉県立岩槻商業高校図書館)

椎名誠 風の道 雲の旅

風の道
雲の旅
椎名誠

今日はどこを旅しているのだから。
旅する椎名誠の脳裏をよぎった忘れがたい風景と、そこに生きる人々の人生の一瞬。エッセイと写真で鮮やかにきりとった、心にしみいる24篇の物語。

今日はどこを旅しているのだから。旅する椎名誠の脳裏をよぎった忘れがたい風景と、そこに生きる人々の人生の一瞬。エッセイと写真で鮮やかにきりとった、心にしみいる24篇の物語。
A4変型/232頁/2600円(税込)

晶文社 東京都千代田区外神田2-1-12
電話03(3255)4501



新・天才論

教育学からのアプローチ

古寺雅男著 天才の豊富な読書量、克明な日記、膨大なメモなどを通して偉業をなした天才の天才たる所以を、初めて教育学の立場から明らかにする。
[Minerva 21世紀ライブラリー] 二五七五円

いじめととりくんだ学校

英国における四年間にわたる実証的研究の成果と展望
P・スミス、S・シャープ編 守屋慶子・高橋通子監訳
心理学者が学校の中で入り、いじめ解決に成功した実例を紹介した実践的テキスト。三六〇五円

おとなになるには

カウンセラーが語る 生き方 ものの見方
氏原 寛著 現場のカウンセラーが、実際の個々のケースから具体的に示す、「おとな」になるといふことの難しさと試練。
三刷出来 一八五四円

ミネルヴァ書房 〒607 京都市山科区日ノ岡堤谷町1
☎075(581)0296 振替01020-0-8076

かわらの小石の図鑑

日本列島の生い立ちを考える

千葉とき子/斎藤靖二著

日本列島の主要な地質体を源流に持つ、関東を流れる三つの川、荒川・多摩川・相模川の「かわらの小石」を採集して観察・分類し、私たちが住む日本列島がどのように誕生し、どのようにして現在の姿になったのかを考える。カラー岩石分類図鑑。

A 5 変型判/定価2575円(税込)

東海大学出版会

〒151 東京都渋谷区富ヶ谷2-28-4 Tel.03(5478)0891 Fax.03(5478)0870

歴史文化ライブラリー

11月創刊

第1回配本11月6日、以後隔月に4冊刊行
四六判/定価各一七五〇円(税込)

21世紀に向けた新しい「知」のシリーズ！
人類誕生から現代まで、忘れられた歴史の発掘/常識への挑戦

第1回配本=11月3日発売

電話113 東京都文京区本郷七丁目二一八
〇三三三八二三一九一五(代表)

吉川弘文館

- 日本人の誕生 人類はるかなる旅 埴原和郎
- 歴史と民俗のあいだ 海と都市の視点から 宮田 登
- 中世の災害予兆 あの世界からのメッセージ 笹本正治
- 江戸の職人 都市民衆史への志向 乾 宏巳
- 会社の誕生 高村直助
- 世界文化遺産 法隆寺 高田良信

コンピュータ関連書籍出版の「アスキー」

『アスキー マルチメディア教育 CD-ROM&BOOK』

●授業をいきいきさせる CD-ROM 学習教材ガイドカタログ。

『Microsoft Press 書籍カタログ 1996 AUTUMN』

●Microsoft 公式の書籍群を入門書から幅広くご紹介しします。

『辞・典・盤』

●岩波書店の岩波国語辞典、研究社の新英和中辞典と新和英中辞典、朝日新聞社の知恵蔵、平凡社のマイペディアの、5冊の定番辞典を1枚のCD-ROMに凝縮してご提供します。

株式会社アスキー 出版営業部

〒151-24 東京都渋谷区代々木 4-33-10 Tel:03-5351-8194

●英和も和英も全面改訂第3版で受験対策も万全 ライトハウス英和辞典 第3版

竹林 滋・小島義郎・東 信行 編 2色刷

収録語数6万5千。和英索引付。

B6 変型判 1856頁 定価2900円(本体2816円)

ライトハウス和英辞典 第3版

小島義郎・竹林 滋・中尾啓介 編 2色刷

収録語数約4万。英和索引付。

B6 変型判 1632頁 定価2800円(本体2718円)

英語音声学 竹林 滋 著

現代英語の音声現象を客観的に記述し、英語の

特徴、英語らしさを解明 定価7210円(本体7000円)

研究社

〒102 東京都千代田区富士見2-11-3

TEL3288-7777 定価は3%の消費税込

名著『字統』『字訓』に続く、
白川漢字学の集大成!

字通

堂々刊行!!
好評発売中

立命館大学名誉教授 白川 静著



漢字の成り立ち、意味、
用例を精確無比に追究
した漢和辞典の最高峰、
ここに誕生。

●50音配列
B5判/本文7ポ4段組
約2,000頁/上製/箱入り

●刊行記念特別定価19,800円
(税込、'97年3月末まで/定価23,000円)

平凡社

図説大百科世界の地理《全24巻》

田辺 裕=監修 A4変型判 各148頁 定価各7828円
第1期4冊好評発売中 第II期4冊は2月刊行予定
■オールカラーで見る世界の地理の最新情報■

トレーニング科学ハンドブック

トレーニング科学研究会=編 定価 15450円

ビタミンの事典

日本ビタミン学会=編 定価 16480円

1996年一秋版

朝倉書店 総合図書目録

■CD-ROM版(Windows)も有、ご請求下さい。

朝倉書店 東京都新宿区新小川町6-29
〒162 ☎03-3260-0141



出版界初の
本格的「大活字本」

- 11 家族の絆
- 12 父の教え 母の教え
- 13 男たらし 女たらし
- 14 恋に恋して
- 15 心の不思議
- 16 読書の楽しみ
- 17 生きている言葉
- 18 語るこゝ 演ずるこゝ
- 19 大いなる自然
- 20 四季おりおり
- 21 花に魅せられて
- 22 犬が好き 猫が好き
- 23 お酒菜談義
- 24 美味礼讃
- 25 趣味のある風景
- 26 旅の誘い
- 27 芸の心 技の心
- 28 ささやかな人生
- 29 出会い、そして別れ
- 30 老いについて

生きるってすばらしい

大活字

新編●日本の名随筆

A五判上製/各二五六頁
セット定価2000円(税込)

《珠玉の名随筆380余編をテーマ別に集成》

全20巻

発行 作品社

発売

リブリオ出版 〒112 東京都文京区大塚3-5-11 TEL.03(3943)8885
住友東小石川ビル別館3階 FAX.03(3943)3540

きみだけの生きかた

おなががすく話

小林カツ代 著

料理研究家の日常の何気ない発
見や、新しい味との出会い、思
い出などを心のままにつづった
エッセイです。 定価1200円

サーキットへいらっしやい!
今宮 雅子 著 定価1200円

何てたって、虫が好き!
澤口たまみ 著 定価1200円



※定価税込

大日本図書 〒104 東京都中央区銀座1-9-10
☎03(3561)8679 FAX.03(3561)3065

限りなく広がる知識の世界

辞典500点突破!

日本語方言辞書 全3巻

—昭和・平成の生活語—

65年間にわたる臨地調査を集大成!

藤原与一編 本書は昭和5年より平成6年ま
で、全国57要地を重点調査し、会話例・文例
を豊富に掲げ、ことばの生きざまやはたらきを
重視し、人々の生活の実相をとらえようと
した辞典。菊判 平均760頁 定価各9570円

博物館学事典 好評発売中
12360円

東京堂出版

〒101 東京都千代田区神田錦町3-7
☎03(3233)3741 辞典目録進呈

没後百年記念

現代語訳

樋口一葉

[全5巻]

『たけくらべ』松浦理英子 *11月

『にこりえ他』伊藤比呂美 *12月

『闇桜/ゆく雲他』 *2月

山本昌代 多和田葉子 井辻朱美 角田光代

『大づもり他』島田雅彦 *3月

『十二夜他』阿部和重 篠原一 藤沢周 *4月

四六変型判/平均1000頁 ●予価各12000円

河出書房新社

東京都渋谷区千駄ヶ谷2-32-2 〒151 Tel.03-3404-1201